

Cattleya purpurata

「カトレア パープラータ」



◀ 自生地近くの民家で咲くパープラータ。



▶ 垂直な岩に芽吹いたパープラータの幼苗。



▲ 海沿いに広がる町を見下ろしながら岩場を歩く。



▲ 岩場で直射日光に当たりながらつぼみを伸ばす若い株。

レリア・パープラータ、長く慣れ親しんだ名前がここ数年ころころと変わっています。2007～2008年はソフロニティス・パープラータ、そして2009年からはカトレア・パープラータ。すべては植物学者のDNA研究による再分類とされていますが、園芸業に携わるものには全く迷惑な話です。

さてこのパープラータ、ブラジルへ行くとまだまだ野生で生えている状態を見られます。自分の名前が人間界でなんと呼ばれようとおかまいなく逞しく山で育ち毎年花を咲かせています。

パープラータはブラジルの大西洋側、リオデジャネイロ州のやや北からリオグランデス州までの海岸沿いに広く分布しています。北から南へ順を追って開花し、地域によって花色のタイプが異なります。南半球ですからパープラータの咲くのは11月～12月、ちょうどブラジルでは初夏の気候になる頃です。

今回ご紹介するパープラータの自生地は、ブラジル南部・サンタカタリナ州の海沿いです。以前からパープラータは海岸沿いにしかないと思っていたのですが、本当に海に面した地域にしか自生していないようです。人間の住みやすい開けた海沿いは住宅地などになり、現在では急な斜面や大きな岩がごろごろとしている斜面にのみ細々と自生地が残っているようです。

今回訪れた場所は2ヶ所で、まずは大きな木のない岩場を歩きました。一見なんでもない様ななだらかな斜面です

が、いざ歩き始めると大きな岩だらけで大変です。中には人の背丈以上もある岩もありこれをよじ登ったり下りたりしながらパープラータの探索です。いつもは大きな木の上を見ながらの探索ですが、今回は果たしてどこに生えているのか見当もつきません。しばらく汗だくになりながら歩いていると岩の上に生えている株を発見。その後は岩の上に芽吹いた小さな株や、垂直の崖に張り付いて咲いている株などを見ましたが何となく不自然！しかも日光の弱いところでよれよれになっている株もあります。やはりカトレア系は木についていなきや雰囲気でないなあ、といった感じです。

◀ 岩場の茂みの中で開花するパープラータの大株。

翌日は少し場所を変えて、やはり海の音が聞こえる木の茂った斜面を探索です。だんだんと急な斜面を降りていくと海からほんの数メートルの所の高い木に大きな株が着生しています。それも栽培品とはまったく異なる姿で！パープラータのイメージはスラッとした背の高い株姿でしょう。ところがここにあるパープラータはバルブも葉もつまった、ずんぐりとした株姿です。着生している木を見ると直射日光に当たる場所にパープラータはついています。毎日強い日光に当たり、海風に吹かれながら育つとこんな姿になるんだ、と新たな発見です。

今回は幸いにも木のない岩場と、昔からの木が残る林の2ヶ所を見ることが出来ました。世界各地の着生蘭の自生地を見て歩いていると同じような場面に良く出会います。そうです！やっぱり着生蘭はもともと木について育っているのですよ！人間の手で木が切られると蘭は生き延びるために岩でもなんでも着生できるところに種子を飛ばして生き延びようと必死になっているんだと思います。科学的な根拠はありませんが、まず間違いないでしょう。これからも開発と蘭の自生地は世界各地で戦い続けるでしょう、でも蘭は相当しぶとい植物であることが今回の旅で再確認できました。

(江尻 宗一)



▲ 古い木の上で着生する大きな株、バルブがぎゅっとつまり良く太っている。



やや日光の弱い所で開花する花、株はやや軟弱。



▲ 木の茂る斜面を降りると大きな岩場の海岸、大西洋の強い風が吹いていた。